



晴天の心

立教189年5月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 5月19日(火) 午前11時～
婦人会例会 5月9日(土) 午前10時～



「金剛葛城を背景に」

3月末から4月にかけて河内長野のニュータウンを巡り桜を撮影しました。すぐ隣の町でありながらこれほどたくさんの桜並木があることを知らなかった。撮影したのは、大矢船、青葉台、南花台、美加の台などの地域。上の写真は、旧南花台小学校に面した幹線道路にある桜並木からの金剛山と葛城山を借景にした写真。今回ここでの写真を残したくてバイクで回ったのです。どのニュータウンも山を切り開いて昭和40年頃から開発されたので、山の形そのもので坂道があり、道路から家に入るにも階段が必ず存在する。南花台は比較的平坦な部分が多い。バイクで桜を見つけては団地内を回ると結構空き地や売家などとなっているところに出会う。購入されたときは現役のサラリーマンだった人たちが余生を過ごすことになって、車を運転できないと買い物にも出かけられない坂の街。電動アシスト自転車でも、それこそ健脚の若者でないと上れない坂の街。結果的に離れざるを得なくなってしまうのかなあ。山を切り開いて住宅を作っていたのは、現代だけではない、明治以前でも集落から離れた地域を切り開きそこで生活していたところは結構あちこちにあり限界集落などと報道されて時々取り上げられることがある。人が住まなくなった場所は、何十年かすると道はふさがれ木々が育ち自然に戻っていく。廃集落の姿を動画で見ると、人はあくまでも自然の中でちょっと抵抗して場所を確保して間借りして生きていると思える。そこに人が暮らさなくなったとき、元の姿に戻ろうとするのだと思い知らされる。

地球という大きなスケールで見たとき、未だに世界のあちこちで私利私欲と己の正義を振りかざして戦争をしている指導者がいる。

地球という大きな存在から見ると、あほみたいな争いをしているとしか捉えられない。自然が本当の力を発揮してしまうと、人間の作った文明なんてものは吹き飛んでしまいかねない。そう考えると、地球という大きな自然とどう向き合うことが大切なのか？

見えてくると思うのです。時空を超越した存在は、その自然という力を借りて、様々な形で私たちに警告し心を入れ替えることを促されていると思います。

まずは、自分自身の行いから少し見直して見ることからはじめませんか？


その積み重ねがいつか世界をそして人生を変えることになると思じて。

...

今日の
おやのことば

「三才の子供という心」

この道の中はこうなってもどうなっても、
これ三才の子供という心にな
なってくれにやならん。



おさしづ 明治36年12月22日

二人の子供がそろって卒業と入学を経験し、それぞれ中学生と高校生になりました。

真新しい制服に袖を通した二人の写真を撮影し、幼稚園と小学校に入学したときの二人の写真と見比べると、かなり変わったところもありますが、何も変わっていないところもあります。

高校生になった長男は、小学校入学時より60センチ以上も身長が高くなっているのに、見方によっては全く変わっていないように見えるのは、不思議な感覚です。

時間の経過によって、変わっていくものと変わらないもの。彼らはこれから多くのことを学び、いろいろな人と出会い、さまざまな経験をしながら成長していくことでしょう。親の立場から子供たちにアドバイスできることも限られてきます。

「この道の中はこうなってもどうなっても、これ三才の子供という心になってくれにやならん」

それでも、毎日の生活の中で感じる親神様のご守護に感謝し、素直に手を合わせる心は持ち続けてもらいたい。親神様の親心に素直に沿いきる意識を持ってさえいれば、ど

んなときでも目の前の出来事に喜びを見だし、人生の荒波を前向きに乗り越えていくことができると思っています。

写真をもう一度見直して気づきました。すべての写真に共通しているのは、二人の元気な笑顔です。これからも、この笑顔は変わらないでいてください。(岡)

...

諸井国三郎六十四才身上願 明治36年12月22日 【本指図】

さあ／＼尋ねる／＼／＼。尋ねる事情／＼、さあ／＼どうなりてこうなりてどうもならん／＼。ならんから一つ尋ねる。尋ねるから又一つ事情理論する。いかなる事も聞き分けくれにや分かり難ないで。身上に一つ事情心に思う。心一つ事情何よの事も身上に掛かりてからどうもならん。堪えるに堪えられん身上の苦しみ、一つの理の苦しみ心に掛かりて、何よ事思う事情よく聞き分け。年限これ一つ／＼指折り数えて、一つ心を休めてくれにやならん。年々年限々々、道筋々々身上一つ十分の理、そこで一つ思い／＼の日を通る。多くの中に事情一つどうもならん。そこで理又一つ、又さのみ思うたこれ事情理、道筋の理である。成っても成らいでも何よの事もどういう理、この心の治めたる。そこで暫く思う中に、又ころりと間違う。これどうもならん。さあ／＼国始め一つ道の理に台を諭し置こう。

この道の中はこうなってもどうなっても、これ三才の子供という心になってくれにやならん。この理一日の中に事情、早く事情諭してやってくれ。

桜の花が咲いて見頃になったかと思うと雨や風の日があって、今年はあるという間に散っていきました。

それでもその桜を楽しみにまた来年も見たいと思い願ひ暮らしている人が多い。今年の桜を楽しめましたか？

それはどこでしたか？

桜の花を楽しむとき不思議と少し見上げるように愛でることが多いですね。すると自然と目が見開かれ口元が緩み自然と笑顔になっています。



そしてなんだか幸せな気持ちになってウキウキしてしまいます。

桜は冬から春になるころの切り替えをしてくれる花ですね。そのなんだかウキウキとした幸せのころを是非周りの人に対すること使いにすると、きっと、ありがとうという感謝の言葉に繋がってきます。

たくさんのしあわせ さだまさし

無駄に歳喰った訳でもないでしょうよ 酸いも甘いも噛み分けて
あれが嫌いの これが憎いの 言わないのよへソ曲げないのよ
辛いことだけ数えちゃ駄目でしょ しあわせいくつかあったはず
あれで損した これに傷ついた 言わないのよ過ぎたなら笑いましょ
ほらほらそしたら しあわせくるよ 魔法の呪文は ありがとう
しあわせあげましょ 隣へまわしましょ いつかまたここに 帰って来るでしょう



腹が立つこと色々あるけど ここが我慢のしどころで
あれがバカだの これがアホだの 切れないのよそっと諭すのよ
悲しいことも沢山あるけど 支え励まし勇気づけ
生まれて生きて 良かったんだと 思いましょ人生それでいい
ほらほらそしたら しあわせくるよ 魔法の呪文は ありがとう
しあわせあげましょ みんなにまわしましょ いつかまたここに 帰って来るでしょう

しあわせあげましょ 隣へまわしましょ いつかまたここに 帰って来るでしょう
しあわせあげましょ みんなにまわしましょ いつかまたここに 帰って来るでしょう
しあわせあげましょ 隣へまわしましょ いつかまたここに 帰って来るでしょう

「しあわせ」はとても曖昧だ。なぜなら「ふしあわせ」無しに成立しない言葉だからだ。誰かの「ふしあわせ」と比べて少しましなことを「しあわせ」と呼ぶことがあったり、他人から見たら恵まれているのに当人はとても不幸なことがある。だからこのような曖昧な言葉をあてにしたり、すがったり、振り廻されたりしてはいけない。しかも「しあわせ」は心の中に起きる一時の「現象」の呼び名なので、ずっと留まってくれる訳でもないし、いつの間にか変質することもある。悲しくないだけで「しあわせ」で、病気をしていないだけで「しあわせ」だ。

実は誰でもポケットの中に「しあわせ」を持ち歩いているのに、その上から、どんどん「ふしあわせ」を詰め込むから「しあわせ」はポケットの奥に押し込められてしまう。ゆっくりとポケットの整理をしてみよう。驚くほど「たくさんのしあわせ」が入っている筈だ。「しあわせ」はいつも心の中に居て、僕自身がそのことに気付くのを、じっと待っているのだ。(さだまさし)